

会議録

会議の名称	平成24年度 第1回西東京市子ども福祉審議会
開催日時	平成24年4月27日（金曜日） 13時 から 14時40分 まで
開催場所	庁議室
出席者	出席者：森田会長、猪原副会長、小林（幸）委員、齊藤（睦）委員、濱野委員、古川委員、中村委員 欠席者：小林（啓）委員、齋藤（喜）委員、高山委員、竹中委員、森崎委員 事務局・職員：子育て支援部長 大久保、子育て支援課長 中尾根、保育課長 神谷、児童青少年課長 横山、子ども家庭支援センター長 齋藤、事務局（子育て支援課調整係 阿久津、笹尾）
議題	1 諮問 西東京市子育て・子育てワイワイプラン（西東京市次世代育成支援行動計画）の評価・検証の実施及び対象事業の選定について（諮問） 2 審議 西東京市子育て・子育てワイワイプラン（西東京市次世代育成支援行動計画）の評価・検証の実施及び対象事業の選定について 3 報告 子育て支援部各課から
会議資料の名称	1 西東京市子育て・子育てワイワイプラン（西東京市次世代育成支援行動計画）の評価・検証の実施及び対象事業の選定について（諮問）写 2 西東京市子ども福祉審議会委員名簿 3 西東京市子ども福祉審議会事務局職員名簿 4 西東京市子育て・子育てワイワイプラン（西東京市次世代育成支援行動計画）の評価・検証のスケジュール（案） 5 子育て支援部関連レベルアップ事業
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
委嘱 諮問	○森田会長： 諮問の内容は、ワイワイプランの評価・検証の実施と対象事業の選定になる。配布しているワイワイプランの概要版の中で重点的な取組みが 16 ある。この中で緊急度の高いもの、不足しているものについて、評価・検証を進めていかなければならない。評価・検証の事業を具体的に選定し、評価・検証の方法を議論いただきたい。 評価事業を具体的にどういった形で優先順位をつけるか、また、この計画の基本理念の一つである子どもの権利の実現を計画レベルでどのように遂行していくか、審議会で議論していかなければならない。重点取組の 5 に、審議会の役割として、子どもと子育て家庭に関する制度や事業について、計画の理念に照らし合わせて定期的に評価し、質を向上するためのしくみの充実とあり、審議会に課せられている課題である。評価活動を積極的に実施するために、今年度の予算はどうなっているか。

○事務局：

今年度予算と資料説明。

○森田会長：

調査員の予算は措置されなかったが、専門委員としての予算は計上できたので、評価・検証できる体制は整った。専門委員がどのように活動するか、対象事業の選定について議論をしたい。私の考えですが、乳幼児期の施策を評価できる方、小学校以降の子どもの育ちが見ていける方の二人を中心に、事業の評価をしてもらい、もう一人全体のデータを読取れる方を、専門委員としてお願いし、保育園などで実施した第三者評価の評価指標や計画を作成した時の調査等を比較しながら、現在の西東京市の評価状況を整理する。評価・検証に審議会委員の方も数名は入って、専門委員の調査活動をサポートする組織を作って、そこで情報共有し、再調査が必要なものなどを検討し、まとめたものを審議会に報告してもらう。

○猪原副会長：

条例策定委員会と同じような性格の組織になると思う。基本的な方針は審議会で決め、具体的な調査等は専門委員に任せるため、審議会からも数名入ったほうがいい。

○森田会長：

専門委員は、調査能力を必要とするので、現在は次世代育成支援の後期計画で携わった方と保育・乳幼児については、大学の教員などを考えている。今年はモデル事業的なことなので、研究・開発的に手伝ってもらえる方を探していく。評価・検証ができれば、計画の理念に照らし合わせて、質の向上に繋がる。今年度やってみて、効果的だったら来年度も実施する。今年度の方式は、このような形かと思うがどうか。

○古川委員：

権利の関係のデータも揃っているので、十分生かせると思う。

○森田会長：

実践的に子どもや子育て家庭の支援が基本理念に合致しているかどうかの仕組みを作っていく。専門委員として委嘱し、評価委員のような根拠ある組織として、調査結果を出して、改善に繋げるようにしてはどうか。審議会から、古川委員、小林委員にサポートしてもらえないか。（古川委員、小林委員了承）専門委員と二人の委員で組織を作り、本審議会に上げていただくことにする。それでは、対象事業だが早急に対応することはないか。

○中村委員：

放課後、子ども達が遊ぶ場は、学校の校庭開放や生涯教育の中で開放しているが、今国の放課後子どもプランが出来て、今までやって来たこととすり合わせをし、整理している。

防災に対しては、学校職員の体制を作っているが、市の職員や地域の方などが集まって、防災計画を作成する必要がある。

○森田会長：

子ども達の放課後の遊び場についても、調査の一つである。防災の問題は、備蓄について学校によって違いがあるので、現在の状況を調査する必要がある。西東京市の防災計画はどうなっているか。

○大久保子育て支援部長：

防災計画については、東日本大震災を踏まえ、今後見直しを図ることとしている。

○森田会長：

防災については、優先度をあげて調査をし、子ども達の安全を守る事が大事である。

○古川委員：

虐待の問題で、発見があつて次に繋げるのが難しい。子どもが子どもらしく生きていくために、仕組みを作ることが必要である。

○森田会長：

発見の仕組みはあつても、予防や回復の仕組みはない。適切に行われているか、調査が必要である。

○齊藤（睦）委員：

最近、入ってくる相談は、繋げて終了するものではなく、速やかに救済しなければならない内容である。連携のしくみという意味では、迅速に繋げるべき社会資源等を調整し解決につなげることは難しい。

○森田会長：

子どもの命を守る施策を評価する必要がある。東京を中心に虐待は増加し、欠食児童が増えている。保育園はどうか。

○小林委員：

朝ごはんを食べていない子はいるので、保護者へ呼びかけをしている。

○森田会長：

以前ワイワイプラザにおいて、土日に食を作る事業を実施した時、お昼ご飯を食べられない子たちが登録していた。日曜日は、保育園、学童がやっていないので、欠食状態になる。長期休暇中に痩せる子もいる。

○濱野委員：

幼稚園にはいない。親の意識や子育て力は緊急的に変わるものではないが、時間をかけてやる必要がある。

○森田会長：

乳児期は、親子の一体感があるが、学校に行くと変わってくる。今回は、生きるをテーマに評価すること、虐待の問題もあつたので、基幹型保育園が機能しているかどうかを、基本理念に照らし合わせて、評価・検証してもらうことでどうか。

○猪原副会長：

虐待の問題で、通報自体も充分でないので、連携、救済状況の調査を願いたい。

○森田会長：

皆さんの意見を、専門委員に繋ぎながら、今年度実施する。専門委員は、適任者を2～3名事務局と探し、評価・検証を実施し、10月の審議会に調査結果を提出する。

審議については以上となる。報告事項に移る。

報告

各課長から資料1～4に基づき報告

○ 森田会長：

今後のスケジュールは、評価活動を踏まえて10月に審議会を開催し、10月以降は必要に応じて開催する。

以上にて終了